

## 教員推薦図書 2022年1月

推薦教員	日本伝統文化学科 助教 小橋 玲治 先生	<p><b>【推薦コメント】</b></p> <p>この本を学生への推薦図書とするのに悩んだことは、人に大っぴらにお勧めするにはちょっとためられるこのタイトル（中を読めばもっとだが）から察していただけるかと思う。ただ、知人でもある京都産業大学の東園子さんも論考の中で書かれていたはずだが、原作を「正史」とした場合、BLの愛好者は基本的にはその「正史」と矛盾のないように原作を読み替える（大体は男性キャラクターの関係性に集中するが）ということであれば、これは極めて批評的な行為であり、学生が何がしかの作品を基にしたレポートを書く場合にも参考になるところがあるのではないかと考え、この本を推薦するという「暴挙」に出た次第である。</p> <p>この本はタイトルの通り、週刊少年チャンピオンで今も連載中の刃牙シリーズ（現在は2018年からの『バキ道』）の原点である『グラップラー刃牙』を通して、そのキャラクターたちの関係性にBLを見出すという、著者がブログに綴っていたものを書籍化した作品である。およそBLと無関係のマッチョイズムに彩られた作品である、というのが通常の読み方と思われるが、レポートもまた意外性があったものの方が面白い。ただし、それは根拠があってこそで、実際の学生のレポートではそこが弱いものが多いのが実情である。この本の著者の金田氏は東大で上野千鶴子氏に師事した社会学者であり、そこはさすがに根拠なしの妄言などではなく、実際の漫画のコマや、時には作者の板垣氏自身の言を引くことによって、筆者のような刃牙をBLとは考えていない者にとっても、「もしかしたらそう読めるのかも…」と考えさせるだけの論となっている。この本はかなり形を変えて昨年WOWOWで松本穂香主演でドラマ化されたが、刃牙がBLであることを主人公が力説する場面でも、無知蒙昧なる学生に対して講義のごとくパワポを使ってプレゼンをするという演出がなされており、大学の人文系授業の講義との親和性が窺えると勝手ながら思ったものである。</p> <p>ただ、私がこの本を推薦することによって誤ったメッセージを受け取られてしまう可能性もあるので最後に釘を刺しておくが、刃牙以外の他の作品もBLとして読めるのだと、そういうことを伝えたい訳ではなく、人が通常思いもよらないような意外な解釈を根拠を持って提示することができれば、どのような分野であれレポートとしては良い評価を得られるのでは、そういう意味では大いに参考となる事例としてこの本はある。もしかすると刃牙に特化しすぎている劇業かもしれないが、中にはうまく掬い取ってくれる人もいるかもしれないと考え、今回の推薦図書としたい。</p>
書名	『グラップラー刃牙』 はBLではないかと 1日30時間300日 考えた乙女の記録ツツ	
著者名	金田 淳子 著	
出版社	河出書房新社	
請求記号	726.101 / Kan	
資料ID	9784309028439	